温故知新　古民家に学ぶ

「観」住まい

家は人がつくるが、家は人をつくる。

古民家店舗巡り同行記

自然素材の家作り、日本古来の伝統構法のすばらしさ。その意義と大切さを一人でも多くの人々に伝えたい……

夢木香　松尾さんの想いの深さには心打たれるものがある。その想いの深さに呼応するかのように、人々の気づきは広がり、深まりつつあるようだ。現に八戸の古民家丼手家の再生披露には、3日間で200組以上の見学者の方々に足を運んでいただいた。今回の旧高取邸見学を組み込んだ古民家店舗巡りにも、2日間で80名以上の方々が参加されている。

漬物処「鶴屋」

「蔵出しめんたい本舗」弥生が丘店

バスの中、マイクを持った松尾さんが参加者に挨拶をされ、自然素材での家づくりの大切さ、古民家に気づかされた先人の知恵の数々を話された。

檜は、使って200年～300年過つとさらに木質が強化されるという。そのようにして自然に強化された法隆寺の檜は、1300年も保っている。それを高々100年程で取り壊してしまうのは、あまりにももったいないと。同感！　である。

木に一本横棒を入れると「本」。本質、根本、大本の「本」。横棒はもちろん大地の象徴だろう。木を介して、天と地が繋がり、相和している。ここにすべての根本があり、大本がある。始源のエネルギー（宇宙意識）の本質がある。そう解すれば、天と地を仲介する木の寿命の長さも得心できる。

日本の超高層ビルのパイオニアでありながら、日本古来の伝統構法へと回帰された池田武邦氏の気づきの言葉が紹介された。

「家は人がつくるが、家は人をつくる。」

この言葉の真意は、この後訪れた3ヶ所の心地良い空間に自ら身を置くことによって、参加者の方々の腑に落ちたことだろう。

樽屋根の漬物処「鶴屋」

西唐津から呼子へと向かう坂を登りきり、しばらく行くと、右手にパッと目に飛び込んでくる空間がある。山を背に、くの字形の建屋。くの字の折れ目の空間、屋根部分に大きな樽が据えられている。漬物処「鶴屋」の販売店舗と食事処。確かに一目でそれとわかる巨大な樽には違いないが、声高に自己主張することもなく、異和感なく風景に溶け込んでいる。創り手の品位が伝わってくるつくり。

創り手と住み手、使い手がひとつになっている空間は常にそうだが、佇いに品があり、心地良い「気」を発している。漬物処「鶴屋」もそうした空間のひとつ。店頭にも店内にも、とてもいい「気」が流れている。安らぎ、そして和みの気。

全面現しの梁の古木に、自然に癒されてしまう。職人とは、文字通り、職（仕事）と人がひとつになっている世界。基本があって規則なしの世界。その自由さ！　その大胆さ！

こんな空間の中に、紛い物など置けやしない。漬物好きのせいもあるが、コーナー毎の試食用の漬物に、ついつい手が出てしまう。玄米・菜食のお陰で添加物を受けつけなくなっている体が、喜んで受け容れてしまうからだ。どれもこれも生命に響く味。

他県から研修で訪れる建築のプロたちをも唸らせてしまう空間。この空間の発する波動は、全国の有名デパートを通じて、多くの人々を「鶴屋」ファンにしてしまった漬物のつくり手たち、店舗で働く人たちをも、我知らずシンクロさせてしまう。そして、その波動に吸い寄せられるように、客として集い、心から楽しんでいる人々…正にその響き合いこそが、「家は人がつくるが、家は人をつくる。」の真意にちがいない。

旧高取邸

大工のN氏から、旧高取邸の凄さを聞いてはいたが、現実にその空間に身を置いた時、気持のいいほど、圧倒されてしまった。

2300坪と言われる敷地の広大さもさることながら、広い中庭を囲む形に、南北で繋がっている居室棟と大広間棟との広大さも、半端ではない。しかし、その広大さに圧倒されるのではない。圧倒されてしまうのは、この邸宅をつくらせた高取伊好（これよし）という人物の器。その底知れぬ広さ、そして深さ。エネルギーの計り難さ。広大な空間、つくりの隅々に至るまで行き届いている、繊細かつ大胆な美意識と遊び心に、なのである。この大邸宅のすばらしさ、面白さを書き始めたら何頁あっても足りない。一人でも多くの人々に、自ら足を運んで実観していただきたいので、駆け足することにする。

国内に現存するおそらく唯一のものである、座敷に組み込まれた能舞台の見事さ。72枚の杉戸絵、欄間の透かし彫りなどに見られるバランス感覚の妙と旺盛な遊び心。金に飽かせての成金趣味とはまるで次元がちがう。

そして2階大広間を、北～東～南とコの字型に囲う回廊状の縁側。壁部分が全くなく、三方見渡す限り、唐津湾～松の庭園が、ガラス戸越しに果てしなく広がっている。縁は「えにし」とも「よすが」とも読む。家屋の一部として、家の内側と外側を繋いでいる「えにし」とも「よすが」とも、なる場所、「縁」。天の気と地の気を仲介する木にとっては、ぴったりの役どころ。この圧倒的な開放感と自由さの中で回廊を一巡りすれば、あらゆる煩悩は溶け去って霧消してしまうだろう。

おそらく日本で唯一の、こんな凄い空間が、こんな身近にある佐賀の人々は本当に幸せである。気づきを一気に加速してくれる空間として推賞したい。

土蔵づくりの「蔵出しめんたい本舗」弥生が丘店

「蔵出しめんたい本舗」弥生が丘店は、鳥栖ICに程近い弥生が丘の一角にある。壁厚22ミリメートル。雪景色を思わせる土蔵造りの白壁が際立って美しい。この店舗は、玄海町で取り壊されようとしていた古民家を、店舗としてそっくり移築再生したもの。

九州の交通の要衝でもあるこのエリアは、大型店舗の集合体、鳥栖プレミアムアウトレットモールをはじめ、多種多様な店舗で賑わっている。しかし、5年前の移築当時は、この一画で初めての店舗で、一軒だけポツンと、荒野の一つ星状態だったという。

店舗内に入る。豪快な太い丸太の梁組。凄い！　自然木の力強いカーブがなんとも言えず良い。そして天井の垂木上に敷き込まれた女竹の美しさ、優しさ。両者が見事に溶け合っており、和む。試食用の蔵出しめんたいを口にした瞬間、すべてが了解できた。この豊饒な和みの味覚と、この豊饒な和みの空間は、出会うべくして出会ったのだ、と。この味は、この空間にこそ相応しい。

松尾さんは「縁」をとても大切にする人。面識もない「蔵出しめんたい本舗」の古川社長から、「古民家を使った店舗をつくりたい」との連絡を携帯電話で受けた時、強く「縁」を感じたという。その直前に、取り壊される寸前の玄海町にある古民家を見に行き、もったいない！　という思いを強くしていたからだ。

その後、古川社長もこの移築に同意され、古民家の持ち主との移譲契約、新築業者、解体業者との話し合いもトントンと進み、移築が確定。構造材の9割強は、そのまま再生利用されたそうだ。やはり「縁」なのだ。

すべては相和し、響きあう。人も家も。家は人がつくるが、家は人をつくる。夢木香の今回の見学会も、すばらしい気づきの旅であった。

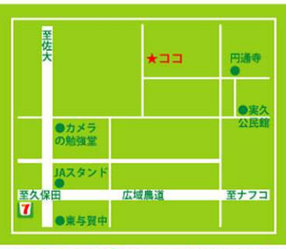
東与賀の家 構造見学会

建前中の現場です!! 現場内には入れませんので周辺からの見学になります。

日時 12/18(金)・19(土) 9:00～17:00　場所 佐賀市東与賀

12/20(日)は夕方に餅まきがあります。子どもさんの参加をお待ちしております。

有限会社 夢木香
http://www.yumekikou-happy.com
フリーダイヤル 0120-835-832



古民家に学んだ構法です。
◎大黒柱があります。
◎大きな梁組の構造です。
◎長ホゾ込栓差しの伝統的構法です。
◎プレカットではない手刻みの構法です。

☆子や孫の代までの家をお望みの方。
☆木組みの家を夢見ておられる方。
☆住宅メーカーに疑問を持たれている方。
☆金物を使わない構法を考えておられる方。
☆国産材の住まいづくりをお望みの方。
☆子どもたちが喜ぶ家をお望みの方。
以上一つのことでも考えている方は見学会にお越し下さい。

設計・施工
有限会社 夢木香（ゆめきこう）
0120-835-832
http://www.yumekikou-happy.com
e-mail : yumekikou@globe.ocn.ne.jp
TEL 0954-69-8333 / FAX 0954-69-8334
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2487
日本民家再生協会正会員